

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西屋)

事業所番号	0670101971		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	グループホーム馬見ヶ崎		
所在地	山形県山形市桜町1丁目17-23		
自己評価作成日	令和 5年 1月 17日	開設年月日	平成 17年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が持っている生きる力を引き出し、グループホームならではの【自分でできることは自分で】行い、人生の舵取りを自分で行っているという実感を感じていただけるように一人一人が大切にしてきたことを続けながらできないところだけをそっと支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 2月 10日	評価結果決定日	令和 5年 3月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため外出や買い物は自粛となり外部との交流や家族等・友人の訪問が制限されるなかでも、ホームの共同生活では利用者同士仲良く、理念にある「今ある生きる力」をいかに発揮し、献立・食事作りや盛り付け・後片付け、毎日の掃除、衣類の洗濯、畑仕事など「自分のことは自分で」行い生き生きとした表情で生活しています。職員はそっと見守り、困っている時はちょっと手助けし、うまくできた時は称賛の言葉を掛け、時には利用者から教わったりして「生活の主役は利用者」を念頭に置き黒子に徹して支援しています。毎月の勉強会で認知症や感染症など事例をもとに話し合いケアの統一を図り、利用者が心身機能を維持しながら穏やかに生活できるよう職員全員で応援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲げ、日々の中で意識を高めることができるようにしている。また、何か支援で迷った時も理念を例に挙げ、理念に沿っているか理念を基に考える事が習慣となっている。	利用者同士の和を大切にしながら「自分のことは自分で」献立や食事作り、掃除・洗濯、畑仕事など持てる力を何時の場面でも発揮し、生き活きと生活できるよう職員は理念を常に念頭に置き黒子に徹しながら支援している。関わりの中での問題や疑問はミーティングで話し合い統一した支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会へ加入し回覧板を届けている。コロナ禍で地域の方と関わる事はできなかった。	コロナ禍のため買い物に行くなど利用者に地域で暮らす実感を持ってもらうことができなくなっているが、散歩であいさつを交わしたりすることが数少ない交流の機会となっている。事業所として町内会に加入し回覧板で情報を得、またグループホームでの生活の様子や認知症についての発信を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とはどんな症状か、グループホームにおける地域の役割などをスライドショーにして地域の方へ発表する機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、町内会の代表者、家族、入居者と共に開催し、入居者の方がお茶を淹れてくれたりする機会があったが、コロナ禍となってからは書面でのやりとりのみとなってしまった。	周辺5町内会代表から委員として参加してもらい地域との関わりを大事に考えている。コロナ禍のため書面開催となり、利用者状況や活動内容・サービス提供報告、写真で生活の様子などを知らせ、委員より「皆さん元気で暮らしていますか」などの励ましの言葉ももらっている。外部の方との交流再開のため対面開催の実施を模索している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度介護派遣相談員の受け入れをしていたが、コロナ禍で現在は受け入れを行っていない。	運営推進会議報告を行い実情について理解を得、介護やコロナ対策等の情報活用などで連携関係を築いている。民生委員や地域包括支援センターから運営推進会議委員として地域介護情報の提供や提案をもらうなど協力関係を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>毎月、身体拘束についての会議を行っており、日々のケア、スタッフの言動を見直し全スタッフで共有している。</p>	<p>「身体的拘束等適正化のための指針」により身体拘束排除宣言を行い、職員全員で身体拘束ゼロを目指し実践している。「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を設置し、毎月各ユニットから議題を提出し、ヒヤリ・ハットや離脱事故、スタッフの言葉遣いなどの事例をもとに利用者が安全に落ち着いて過ごせるよう話し合っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、学んだことを周知している。また、月に一度会議を開き、例を挙げ議論している。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度を利用している方で、不明な事があれば社会福祉協議会や市へ問い合わせたり、制度について理解を深めるよう努めている。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には可能な限り本人にも同席していただき、ホームでの生活を理解いただく時間をとり、説明している。本人や家族の不安をその場で解消できるように十分な時間をとっている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訴えがあればすぐにその場で傾聴するようし、想いを受け止めている。ホームに対してのご指摘があれば相談票に記入し、全スタッフで共有し解決につなげている。また入居者が家族に話したいという要望があれば、ご家族へ電話をしたり面会に来ていただけるようお願いしている。</p>	<p>随時お便りや動画で利用者の暮らしの様子を家族等に伝え、面会やカンファレンス(担当者会議)時などに意見や要望を聞いている。家族等からは対応が早い・すぐ連絡をくれる・笑顔で親身になって関わってくれて感謝など満足の言葉があり、職員の励みとなっている。利用者の訴えや要望はその場で傾聴し、できることはすぐ改善に繋げている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議で意見を聞いたり、年2回個人面談で意見や提案を個別に聞いている。こころみマネジメントという困っている事や試してみたいことを記入する用紙を活用し、スタッフの意見を反映できるようにしている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自分を客観的に評価する評価表を記入し、自らたてた目標を振り返る機会を作り、管理者、リーダーと話し合いの場を設けている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職場内研修を行い、発表、話し合いの場を設けている。年間の研修の予定を立てているが、自由に自分の勉強したいことを発表することもできるようにしている。ズームでの研修にも参加を促している。	毎月勉強会(内部研修)を行い、テーマ毎に担当者が指導する立場となり事例・考えを提示して話し合い、互いのケアの質・技術の向上を図っている。コロナ感染状況により書面開催時は全職員に研修報告書を配布し周知している。職員は年間目標を立て半年毎に自己評価で振り返り、管理者面談はアドバイスを交え達成度を話し合う良い機会となっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で外部との交換研修はないが、ズームで外部との情報交換やホーム内でスタッフ同士の勉強会や情報交換を行い、マンネリ化せず変化していく事を意識している。	県グループホーム連絡協議会オンラインミーティングに参加し参加事業所と情報交換を行い、それぞれの事業所の取り組みや力を入れている支援内容を知り、自事業所を振り返りサービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能なら事前にご本人のご自宅に伺い、生活状態等お聞きしている。事前の見学も勧めており、ご本人やご家族にもホームの雰囲気を感じていただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にこれまでの生活環境や経緯、人生で大切にしていることを聞き取り、アセスメントを行っている。また契約の前に見学をしていただきその時に疑問に思ったこと、不安な事を話していただいている。また契約時でも時間を十分にとり、不安解消に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時にご家族へ様子を伝えたりご家族の希望をうかがっている。またカンファレンスを行った際、本人、家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な関係を作る為に入居者の方ができることは自分で行っていただき常に感謝の言葉を伝えている。自分のことは自分で自己決定できるような声かけを行い、本人の意向を反映できるように支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やご家族から電話がきた時はホームでの生活の様子をお伝えし、面会時は窓越しではあるが、顔を見て話ができるようにしている。また会話の中でご家族の話題に触れ思いだして安心できるようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ通ったり、本人が働いていた飲食店でお総菜を買ったり、今までのつながりが途切れないようにしている。また本人がさりげなく言った場所を聞き取り、ドライブでお連れしたりしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通点を見つけ会話の橋渡しをしながら入居者同士の心の距離が縮まるように支援している。職員がすぐに手を貸すのではなく、入居者同士が助け合う場面を作り信頼関係が築けるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際は思い出が詰まった写真をDVDにしてお渡しし出会えたことに感謝の気持ちを伝えている。困ったことがあったらいつでも電話して下さるよう、お伝えしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前にどのような人生を歩まれ、どんなことを大切にしてきたのかを本人、家族から聞き取りし共有している。ホームでも今までの生活の延長として暮らせるようケアプランにも反映し全スタッフで支援の統一を図っている。	入居時の生活状況や環境、思い・大事にしていることなどの情報や日々の暮らしの中での気づきを共有し、一人ひとりの課題は何かを話し合っている。言葉で伝えられない時は家族等から聞きとった「人生の歩み」を参考にし、「皆と仲良く暮らしたい」「仕事をした」「趣味を続けたい」などの意向をプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話の中で本人が話したことを記録に残し、本人が大切にしてきたことをスタッフ間で共有し生活に取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好きな事を継続できるように個々で過ごす時間も大切にしている。お部屋で編み物をしたり書道をしたり塗り絵をしたり、気が向いたときにすぐ取り組めるように環境を整えている。時にはお部屋にお邪魔し困りごとを聞いたりしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議で一人一人のモニタリングを行い、本人が何に困っているか、その解決策はあるか、スタッフ全員が参加し意見を出し合っている。変化があればケアプランの見直しをケアマネジャーも含め話し合いの場を設けている。	毎月一人ひとりのプランを担当者によるモニタリング(評価)をもとにその人らしく生活できているか、本人の現状と思いを大事にして職員全員で意見を出し合い内容を検討している。見直し時はカンファレンス(担当者会議)で生活状況や健康状態、課題を伝え、本人・家族等の意見を取り入れてプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し、心身に変化がないか見直している。出来る事が継続して続けられるようにケアプランも毎月見直している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全ての地域資源は把握できてないが、ご本人の力を発揮できるように支援している。地域の中のグループホームとして、周りに関わりながら生活を楽しめるように支援視している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態がわかるよう、ご家族が対応する受診の際はサマリーを作成し、主治医とご家族へ報告している。往診の際には前もって聞きたい事、気になっている事を記入し体調や状況などしっかり伝えている。	利用者の多数が希望により月2回の訪問診療を受診し、往診日に職員は利用者の体調や相談事をまとめて記入して主治医に伝え、スムーズな診療に繋げている。通院は家族等の協力を得て、作成した情報提供書を持参してもらい結果も共有している。隣接するデイサービスの看護師と連携を図り、情報交換しながらアドバイスを受けている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面や気になったことは、看護師に相談し、連携を図っている。また、新しい入居者が入居した際には、看護師へ新しい情報を伝え、適切なアドバイスがいただけるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時のサマリー提供や術後の状態確認の連絡を入れ、病院と情報交換している。退院時の状態を確認しながらグループホームへ戻れる状況なのか、生活する上で気を付けていくこと等、医療相談員、ご家族と連携を図っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時、看取りについての説明を行い、同意を得ている。またカンファレンスの度に終末期のあり方をご家族に確認している。今後考えられるリスク等もお伝えしながら、基本的に看取りはしない事、要介護3以上になって状態が変わったら特養の申し込みの話もしながら進めている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における対応の指針」に基づいて、看取りに関しては特別な場合を除いて行わないと家族等に説明し、同意を得ている。主治医の判断や介護度の変更・ホームでの生活が難しくなった時に家族等と話し合い、次の移動先の情報提供など希望に沿えるように支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>コロナ禍となり、外部からの救命講習が受けられなくなったが、動画を見ながら救急時の対応を見直している。一年間の緊急時の訓練を予定し、定期的に訓練、勉強会を行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>一年間の訓練を予定し、火災訓練、水害訓練を行っている。非常食や災害時の備蓄品も定期的に確認している。</p>	<p>3月に夜間の地震、10月には併設するデイサービスと合同で火災を想定した避難訓練を防災マニュアルに沿って利用者も参加して実施し、防災会社からアドバイスを受けている。また職員の緊急招集電話連絡網の確認訓練も行われ、非常持ち出し品や食料品などを準備して、災害に備えている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>尊厳をもって関わる事を心がけ、言葉遣いや態度など気を付けている。</p>	<p>理念にある「今ある生きる力」をいかんなく発揮してを実践し、特に食事作りは利用者一人ひとりが役割を持って参加して「できたよ」と輝ける場面で、「ありがとう」の感謝の言葉で生き活きとした表情になっている。職員は声掛けや段取りなどサポート役となり、利用者が主役となるように支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時には一対一で話をし何気ない会話の中で出た言葉を共有し、行きたい場所、会いたい人、食べたい物、が実現できるようにしている。日常生活の中のあらゆることを自己決定できるよう、まずは本人に聞くようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍の中、自由に人ごみに出かけることは難しくなったが本人が発した言葉が実行できるよう心がけている。職員のペースで動くのではなく、入居者一人一人の生活のペースを大切にしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着たい物が着れるよう、ご本人に選んでいただいている。自分で用意できない方も職員がご本人に提示し、選べるように心がけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の本や広告を広げ、入居者と一緒に献立を決めている。入居者が主となり調理できるようスタッフはさりげなくお手伝いしている。片付けは役割が決まっており、皆それぞれの役割をこなし協力して行うことができている。	ユニット毎に献立作りから調理まで毎食利用者全員が役割分担しながら参加し、包丁使いや揚げ物などもしてもらい、危険が無いように職員は見守っている。主菜は昼食は肉料理・夕食は魚料理をメインに、昼食の主食はご飯・パン・麺から好みの物を選べるなど、豊富なメニューは食欲増進に繋がり、楽しい食事になっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	彩や栄養のバランスを考えた食事が摂れている。また旬の食材や食べたい物を聞いて献立に取り入れている。誕生日や行事の際は入居者のリクエストを取り入れている。水分を摂りたがらない方は、ゼリータイプの飲料を準備したり種類を豊富にし進んで水分摂取が行えるようにしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせたケアの方法を職員同士で把握し、毎食後声かけや確認しながら口腔ケアを行っている。またマウスウォッシュ等も準備し、歯周病などの予防にも努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時や変化があれば一日の排泄状況を職員同士で共有し、分析し、それに合わせた支援を行っている。今の状況が適しているか往診医にも相談し、助言をいただいている。	排泄チェック表に記入して一人ひとりのパターンを把握し、自立の方は自分の意志で、また時間を見計らった職員の声掛け誘導などでトイレで排泄できるように支援している。日中・夜間・外出時に排泄用品を変えるなど、利用者が安心できる一番良い方法を職員間で話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の刺激となるように日常の中でなるべく身体を動かせるような機会を作り、軽体操を行っている。水分を摂るように促したり、便秘に良いとされる食べ物を取り入れている。往診医や看護師、薬剤師に必要な応じて薬の相談も行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入りたい方や、同性介助等、一人一人の希望に添えるよう声をかけている。温泉地の入浴剤を使い、気持ちよく入浴していただけるような支援を行っている。	希望者には毎日でも入浴可能で午後の時間帯に、身体状況により一般浴槽やチェア浴槽を利用している。事前のバイタルチェック・脱衣場や浴室の温度・水分補給などに職員は気を付けながら安全にゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。拒む方の理由は様々なので職員同士で連携し、タイミングを見て声掛けしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあえて決めず、それぞれの生活リズムに合わせて休んでいただいている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書は常に新しい物を提示し、薬の変更があればその都度看護師に報告を行い、職員全員で服薬内容を共有している。服薬時もマニュアルに則り、名前、朝昼夕かどうかを声を出して確認し、飲み残しや飲み忘れがないか緊張感を持って対応している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで得意としてきた漬物作りや書道、編み物等行う時間を作り、生活の中で個々が活躍し、楽しみをもって生き生きと過ごせるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限がある中ではあるが、行きたい場所、やりたいことを聞き取りし、できる限り実行している。買物にはまだ行ける事が出来ないが、散歩やドライブに行つて気分転換を図っている。コロナ感染者数の減少時には自宅のお仏壇を掃除しに行ったりお墓参りに行く事ができた。	人気のあるドライブを再開し、感染予防の為少人数で数回に分けて季節の花見などに出かけて気分転換を図っている。天候の良い時は近隣の散歩や畑仕事で外気に触れる機会を作り、冬期間は屋内で棒体操や踏み台昇降などに自主的に取り組み、ストレス解消にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族了承の元、自身でお財布を持っている方もいるが、コロナ禍の為、買物の機会はない。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ホームへの電話は基本的に入居者の方々にいただいている。家族とも公衆電話からかけていただき、つながりを感じてもらえるようにしている。ご家族に向けての年賀状もご本人から書いていただいている。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の方と一緒に季節ごとの装飾を手作りし、壁に飾ったり、季節の花を活けていただいている。</p>	<p>食堂・廊下・玄関の掃除は利用者全員で日課として行い「自分のことは自分で」を実践し、清潔で季節感のある環境作りに努め、感染予防の為の換気や消毒もしている。リビングは皆が集う場所で行事や体操などで日中のほとんどを過ごし、自分の食席・和室のこたつ・廊下のソファなど思い思いの場所で寛いでいる。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下のソファで休憩したり、個室でお茶のみをしたり、和室のこたつを利用したり思い思い使っている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に自宅を見せていただき、本人の愛用する家具や思い出の品を持ってきていただいたり、現在の身体状態に合った過ごしやすいお部屋の環境を作っている。家族の写真や家族からの手紙を見えるところへ飾ったり季節ごとに花を飾ったりしている。</p>	<p>居室にはダンスと洗面台が備え付けてあり、自宅から仏壇や冷蔵庫などを自由に持ち込み、入り口には自作の表札を飾り間違いの無いように工夫している。つかまり立ちしやすい家具の配置・福祉用具の見直し・センサーマット使用など一人ひとりの身体状況に合わせて安全に居心地良く過ごせるように支援している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の席が分からなくなる方には席に名前を付けたたり自身で編んだ手作りのニットをかぶせたりし、食器棚には食器の写真を張り付け、片付けやすいようにしている。トイレや自室もわかりやすいように目印や張り紙をしている。</p>			